「この人　25」

安居雅寿　64 歳　富山県

八木　**安居さんの多作には驚いています。月刊俳句総合誌「俳壇」の「微苦笑俳壇」へのはがきも、毎月二十枚ほどいただいています。**

安居　月に五百句ほどつくります。夜二時間を俳句づくりにあてています。はじめの一時間は全然できないのですが、俳句の材料を頭の中でかき混ぜているうちに句が浮かんできます。私は俳句を始めたのが遅いですから、それだけ頑張らんといけません。

八木　**驚くほど滑稽句の秀句があるんですね。**

安居　今度、本阿弥書店から出すアンソロジーに参加させていただくことになって、句を整理してみたのですが、我ながらバラエティーに富んだ句を拾い出すことができました。私の目指すところは、能楽でいえば四次元から幽玄の世界です。日本には七福神の「笑み」をもって神仏を崇める信仰があります。古来の魂に触れてゆく寿福から四次元、幽玄にいたる時空を超えた「おかしみ」を狙っています。学生時代に能楽を楽しんだことがありまして、今になって古来からの普遍の笑いに共感できるようになりました。

八木　**それでは、安居雅寿さんご自慢の五句を。**

＜代表句＞

夏柳ケチャップまみれのエキストラ
御慶述ぶインターホーンに一例し
ちぐはぐも芸のうちなり猿回し
猫の恋オセロのやうにもつれけり
幽霊にこの世の出口尋ねけり

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。